

— 九州地区から内航船員確保・育成に関する諸問題の意見を発信 —
内航船員の人材確保・育成に関する懇談会の模様

当協会（林 忠男 副会長、鶴丸 俊輔 九州地区船主会議長）は、九州地区船員対策連絡協議会との共催により平成 22 年 7 月 1 日（木）福岡市博多において、内航海運事業者と海技教育機関（国立海上技術学校、水産系高校）による人材確保・育成に関する懇談会を開催した。

同懇談会は、少子高齢化が進むなか不足傾向にある若年船員の確保・育成を目的として、海技教育機関（水産系高校、海上技術学校）と内航海運業界との間で率直な意見交換を行うものであり、毎年継続的に開催している。

今回の懇談会では、各教育機関および内航海運業界から最近の就職・採用状況を中心とした情報交換があった。

内航海運業界からは、リーマンショックに端を発した経済危機から 2 年近くが経過したものの、主要貨物である鉄鋼、セメント、石油などの国内需要は依然低迷を続けていることと、最近の業界再編の関係で物流効率化の影響により減船の要請が強く、船隊規模の拡大は難しいなかでの新規船員採用の維持は厳しい旨の説明があった。

一方、水産系高校の意見では、生徒の内航海運業界への就職希望が強いなか、昨今の求人数減少から、進路指導において生徒に海技者としての就職を諦めさせる傾向が強くなってきた事などの指摘があった。また、船橋航海当直に必要な 6 級海技士（航海）資格の取得については、卒業後の航海実歴期間において教育機関の間で格差があるため、これを是正すべきとの要望があった。

海上技術学校においては、生徒は海技者として海運業界に就職するという高い目的意識で入学し、そのための専門教育を受けていることから、卒業後は海技者以外の選択肢は殆どないといった現状について説明があった。このため海運事業者は昨今の厳しい状況下においても新規採用について最大限努力いただきたい旨の要望が出された。

当協会としては、海運事業者と教育機関それぞれの諸事情による問題点が存在するなかにおいても人材確保・育成は重要課題であるため、船員出身数の多い九州地区において教育機関との人材確保・育成に関する懇談会を継続的に実施していくこととしている。

日 時： 平成 22 年 7 月 1 日（木） 15：00～17：00

場 所： ホテルセントラータ博多

共 催： 社団法人日本船主協会、九州地区船員対策連絡協議会

出 席：

【教育機関】

水産系高校：山口県立水産、長崎県立鶴洋、熊本県立苓洋、大分県立海洋科学、
宮崎県立宮崎海洋、鹿児島県立鹿児島水産、沖縄県立沖縄水産

海上技術学校：国立唐津海上技術学校、国立口之津海上技術学校

【日本船主協会 九州地区船主会】鶴丸海運、日本サルヴェージ、宇部興産海運

【九州地区船員対策連絡協議会】

（九州地方海運組合連合会）

芙蓉海運、祝林タンカー、日向海運、宇部興産海運、大旺海運、
松盛汽船、木村海運、日之出海運、

（全国内航タンカー海運組合西部支部）

青崎海運、霧島海運商会、松島輸送船、西瀧海運

（国土交通省 九州運輸局）4 名



▲開会の挨拶をする 九州地区船主会 鶴丸 俊輔 議長



▲ 挨拶をする 林 忠男 副会長



▲ 懇談会の模様